

石川

ISHIKAWA PREFECTURAL
MUSEUM OF HISTORY

れきはく

No.156
2026.9.18

令和8年度
秋季特別展

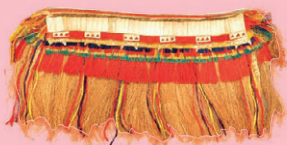
国立民族学
博物館
コレクション



B



C



A



D



世界の かわいい 衣装



E

Handmade Dresses of the World:
The National Museum of Ethnology Collection

2026年
9月19日(土) - 11月8日(日)



F



会期中無休



G

A: 腰みの (バブアニューギニア) 1984年収集
B: 帽子 (ルーマニア) 1997年収集
C: 上衣 (ウズベキスタン) 1980年収集
D: 上衣 (メキシコ) 1993年収集
E: 手袋 (エストニア) 1992年収集
F: 上着 (モロッコ) 1991年収集
G: 上着 (ポーランド) 1987年収集
すべて国立民族学博物館蔵

令和8年度
秋季特別展

国立民族学
博物館
コレクション

Handmade Dresses of the World:
The National Museum of Ethnology Collection

2026年

9月19日(土) 11月8日(日)
9時～17時 (展示室への入室は16時30分まで)

会期中
無休

【観覧料】一般:1,200(960)円／大学生・専門学校生:960(760)円
高校生以下無料／()内は20名以上の団体料金／65歳以上は団体料金
＊常設展もあわせてご覧いただけます
＊障害者手帳または「ミライロID」ご提示の方、および付添1名は無料
＊オンラインチケットは当館ホームページよりご購入いただけます(日時指定なし)

主催: 石川県立歴史博物館・国立民族学博物館・千里文化財団
特別協力: 北國新聞社 後援: NHK金沢放送局・金沢市教育委員会

世界の かわいい 衣装

さまざまな気候や風土、社会や文化の中で育まれてきた世界の衣装。豊かな色彩や文様、かたち、着方の多様さはもちろん、織りや染め、刺繍、レースなどの手仕事も大きな魅力です。生活を彩ってきた衣装は、人びとの知恵や創意工夫、技術によって受けつがれてきました。本展では、国立民族学博物館のコレクションから「かわいい」をキーワードに選んだ世界の衣装約120点を紹介します。

スロバキア

上着【1990年収集】

スロバキアの男性用上着。厚地の羊毛地に、極太の刺繍糸で花文様が刺繍されている。赤いフェルトによるパイピングと半円形のフェルトの装飾が、一層鮮やかな印象を与えている。

国立民族学博物館 (みんぱく) とは？

世界の人びとの暮らしと文化にふれる、文化人類学・民族学をテーマにした世界最大級の民族学博物館です。世界各地で収集した衣装や生活用具など約1万2,000点を展示するほか、儀礼や芸能を紹介する映像も公開しています。本館展示は、地域展示と音楽・言語をテーマとした通文化展示で構成されています。また、特別展や企画展も随時開催し、多様な文化への理解を深める機会を提供しています。

国立民族学博物館
中央・北アジア展示場

インド

下衣
【2002年収集】

インドのデザイナー、リトゥ・クマールによる2000年代の女性用婚礼衣装。金銀糸による精緻な刺繍で小花やペイズリー文様が表現されており、王宮衣装に着想を得た華麗なデザインは、現代インドにおける新たなファッション消費を象徴している。

カナダ

上着 [1978年収集]

カリブー（野生トナカイ）の毛皮でつくられたイヌイットの男性用パーカー。寒さの厳しいこの地域では、防寒性と保温性に優れたカリブーの毛皮によるパーカーやズボン、保温性と防水性に富んだアザラシの毛皮による靴や手袋などは欠かせないものであった。

オーストラリア

首飾り [1991年収集]

アボリジニの人びとのペンダント。北部のキンバリー地域でよくつくられていたもので、大きな真珠母貝（殻部分）に幾何学的な文様が、べんがらの赤茶色で描かれている。貴重品として海から遠い内陸にもたらされた。

南アフリカ

地域展示

石川の“かわいい”子どもの衣装

金沢・真成寺に奉納された着物と、加賀能登の祭りに関わる衣装を展示

子どもの成長を願い鬼子母神に奉納された着物。布はよその人からもらい受け、数が多いほど良いとされた。表地は250枚もの小さな布を縫い継ぎする。背守りは魔除けとなる「龍目」の図柄である。

百徳着物（ヒヤクトコ）
明治時代 金沢市・真成寺蔵 重要有形民俗文化財

肩掛け [1996年収集]

南アフリカのズールー女性の婚礼衣装の肩掛け。祖母や母らが作った複数の飾り布を結婚式前日につなぎ合わせて肩掛けとして使い、式後は一部を前掛けに、残りはさまざまな儀礼で羽織るなど、多様に活用される。

関連イベント

事前申込ができるものは下記の方法でお申込ください

【申込方法】当館ホームページのイベント参加申込フォームまたは 往復はがき

【記載内容】希望イベント名・お名前（備考欄に参加者全員）・ご住所・電話番号

記念講演会

「対談 染織と装身具の人類学
—— 交易・儀礼・くらしをめぐる」

染織研究と文化人類学、それぞれの調査や研究をもとに、衣装や装身具の魅力を語り合います。

定員：先着50名

※申込なしでも参加可能ですが、事前申込優先です。※聴講無料

日時

9月21日（月・祝）13:30～15:00

講師

上羽 陽子氏（国立民族学博物館 教授）
平野智佳子氏（国立民族学博物館 准教授）

会場

当館ワークショップルーム

ギャラリートーク

- ① 装いをともにする
——ラバーリーの結婚式と刺繍布
- ② 極北の冬をまとう
——イヌイットの毛皮服の世界

※事前申込不要・要特別展観覧料

日時

① 9月19日（土）／② 10月10日（土）
いずれも13:30～14:30

講師

① 上羽 陽子氏（国立民族学博物館 教授）
② 岸上 伸啓氏（国立民族学博物館 名誉教授）

場所

特別展会場

ワークショップ

かわいいもようを縫ってみよう！

子どもの着物の背守りなどに用いられた「飾り縫い」を体験するワークショップです。

※事前申込不要・参加無料
※小学生以下は保護者が同伴してください。
※時間内にお越しいただければいつでも体験できます。

日時

① 9月27日（日）13:30～15:00
② 10月18日（日）13:30～15:00

場所

当館ギャラリー

協力 金沢くらしの博物館

資料 紹介

真成寺の奉納着物

◆ 学芸課長 大井 理恵

秋季特別展「国立民族学博物館コレクション 世界のかわいい衣装」は、衣装を通して世界各地の文化に触れてもらおうと共に、染や織り、刺繍やレースなど多彩な手仕事を間近に見ていただく機会となる。地域展示として県内の染織資料をあわせて公開するが、その中から鬼子母神信仰に関わる子どもの着物を紹介したい。

金沢市東山の真成寺は、小松城内で祀っていた鬼子母神を城下に移して設立したとされる、日蓮宗の寺である。17世紀後半に金沢に移転し、子授け・安産・子どもの成長・病氣平癒などを祈願する「卯辰の鬼子母神」として信仰を集めた。江戸時代からの奉納物966点が「真成寺奉納産育信仰資料」として重要有形民俗文化財に指定されている。

うち286点が着物類で、子どもの成長や病氣平癒を願い、または安産などの御礼として奉納されたものである。特徴的なのが、さまざまな布をパッチワーク状に縫い継ぎした着物で、金沢では主に「ヒヤクトク」「ヒヤクトコ」と呼ばれ「百徳」の字が宛てられる。「百」は数の多さを表し、できるだけ多くの人(家)から布をもらい受けて作る習わしであったという。その数だけ子どもの加護になるとの思いであろうか、最も多いもので表に250枚の布を使用しており、気の遠くなるような細かな縫い継ぎを見ることができる(前頁参照)。

百徳着物は江戸時代後期から昭和50年代まで、28点が奉納されている。古いものは天保10年(1839)の銘をもつ品で、背面に「奉納」の墨書と、菱形の背守りがある(写真①)。背守りは幼児の

着物の背面^{えりもと}衿元につける魔除けで、全国的に見られ、糸による飾り縫いや刺繍、小布などがある。真成寺の奉納着物には背守りをもつ品が約130点含まれ、簡素な糸縫いから金沢の特徴とされる押絵背守りまで、実に多種多様であり、時代による変化も読み取ることができる。

特筆されるのは百徳や背守りだけではない。丈35cmほどの小さな絞^{しぼ}り染^{そめ}の着物^{ひち}は、紐の墨書から、5歳の女児の病氣平癒を願って天保13年(1842)に奉納されたものと分かる(写真②)。このような麻地の紅絞りは、江戸時代後期から明治時代の女児・少女の衣料と考えられる。真成寺の奉納着物には他にも魚や花などさまざまな文様の紅絞りが含まれており、金沢近辺の衣生活の一端がうかがえ興味深い。

鬼子母神との縁により、真成寺の奉納額^{ちようちん}や提灯^{ていとう}にはしばしば柘榴^{ざくろ}が描かれるが、奉納着物にも石榴文様や石榴紋を施したものがある(写真③)。多くが友禅染(手描き友禅)で、江戸時代末期から明治時代の品と推定される。真成寺に納めるために^{あつら}誂えたのであろうから、当時の友禅染技法を知る上でも貴重な資料群である。加賀の友禅染は大正時代頃まで顔料が多^{がんりょう}用されたといい*、実際に石榴文様には顔料のような量感のある色^{いろ}挿^さしが見受けられる。

奉納着物はいずれも愛らしく、我々の目を楽しませてくれるが、その背景には子どもの無事な成長を祈る篤い信仰心があり、それを支えてきた手仕事がある。世界の衣装に触れるとともに、身近な衣文化についても見つめ直す機会となれば幸いである。

*花岡慎一「加賀染」「加賀のお国染3 友禅と加賀紋」フジアート出版 1972年



写真① 百徳着物(ヒヤクトコ)(部分)
天保10年(1839) 真成寺蔵



写真② 絞(しぼ)り染(そめ)の一つ身
天保13年(1842) 真成寺蔵



写真③ 石榴文様友禅染の一つ身
江戸時代末期 真成寺蔵

▲▶すべて重要有形民俗文化財

特集

令和6年

Vol.11

能登半島地震によせて

『石川れきはく』では、146号（2024年4月発行）より「特集 令和6年能登半島地震によせて」の連載を行っています。150号（2025年4月発行）からは、被災地に関連した文化財を紹介し、その歴史的意義や学芸員が考えたことを発信してきました。本特集が、多くの方々が能登の文化財、ひいては被災地に関心を寄せるきっかけになれば幸いです。

須須神社文書、これまでとこれから

◆ 学芸主任 岡崎 道子

令和8年3月、須須神社文書の国指定重要文化財答申が報道された。この資料は能登半島の北東端、珠洲市三崎町寺家に所在する須須神社所蔵の文書群で、須須神社および別当高勝寺（明治2年廃寺）に伝来したものである。県内最古である承安5年（1175）2月28日の年紀を持つ『能登国司庁宣』をはじめ、能登守護畠山氏や加賀藩主前田家からの書状などを含み、その希少性は群を抜いている。令和7年1月～2月に当館でテーマ展を開催しており、ご覧になった方もいるだろう。

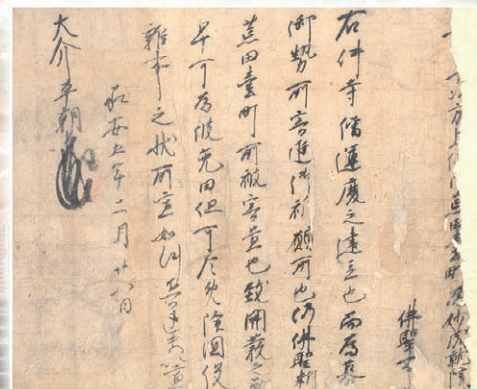
須須神社文書はこれまで度々学術調査がなされ、その価値が確認されてきた。今回の重要文化財答申はその集大成といえるだろう。せっかくの機会なので、調査の歴史を概観してみよう。

この文書群の存在は江戸時代中期には知られていたようで、貞享2年（1685）の『寺社由緒書上』や前田綱紀が採集・編纂を命じた『松雲公採集遺編類纂』にその一部が列記・収録されている。明治に入ると前田家編輯方による調査が行われ、『能登古文書』や『須須神社古文書』にまとめられた（いずれも金沢市立玉川図書館近世史料館蔵）。その後も東京大学史料編纂所（明治31年・昭和7年影写）、日本常民文化研究所（昭和27年）、珠洲市史編さん委員会（昭和49～54年）などが調査に入った。中でも特筆すべきは大正13年（1924）発行の『須須神社誌』編纂に伴う調査で、須須神社社司の猿女幸雄氏と國學院大學教授の植木直一郎氏により、社蔵文書の大部分が整理された。本書に収録された古文書は神社外の資料を含むものの、須須神社文書の全貌を把握するものとして長らく参照されてきた。

これら調査の甲斐あって、昭和34年に54通が市指定文化財に、昭和57年には73通が県指定文化財となった。重文指定の検討に際しては改めて社蔵文書の精密な調査がなされ、78通の文書がリストアップされている。今後新たな文書が発見されれば追加指定も可能であり、ますますの調査・研究が期待される。

須須神社文書の重要文化財指定は、復興の途上にある地元地域にとって、大きな活力になるだろう。一方、保存管理の面で課題もある。須須神社ではもともと、文書を他の宝物とともに収蔵庫で保管していた。地震発生当時、文書はたまたま他所にあって被害を免れたものの、収蔵庫は被災した。重要文化財には適切な保管環境が求められるため、文書の保管が難しい状況になってしまったのだ。現在神社では保管場所の修繕・再建を模索しており、適切な環境が整備されるまで当館でお預かりすることになっている。

整備には時間がかかるだろうが、所蔵者のもとへ帰る見込みがあるというのは大変明るい話題だ。一日でも早く、文書が故郷へ帰る日が来るのを願ってやまない。



能登国司庁宣 承安5年(1175) 須須神社蔵

夕日寺千手観音菩薩像

学芸員 中井 夏帆

金沢市の北東、山間部に位置する夕日寺町。奈良時代の養老3年（719）、僧・泰澄は医王山を開山した後、三ノ坂往来を通して越中へ赴いた際、一夜を洞窟で過ごし、「上日寺」（現在の氷見市朝日寺）の観音菩薩を礼拝する夢をみたという。その後、泰澄は傍らの佳木を用いて千手観音菩薩像2軀と狛犬像2軀を彫り伽藍を建立、「養老山下日寺」と名付けた。その後、越中の上日寺は「朝日寺」と呼ばれるようになり、下日寺は「夕日寺」と呼ばれ、現在の地名となったとされる。



図1 夕日寺観音堂



図2 観音堂安置時の千手観音像2軀

この時制作されたと伝わる千手観音像2軀は、大正5年（1916）建立の観音堂（図1）に安置され、永らく夕日寺町会によって守り伝えられてきたが、観音堂の老朽化に伴い、今年の3月当館に寄贈される運びとなった。本稿では、この千手観音像2軀について、この度の寄贈に際して実施した最新の調査成果を速報する。なお観音堂須弥壇向かって左に安置されていた像を「その1像」、向かって右に安置されていた像を「その2像」と呼称する（図2）。

1、概要

〈その1像〉

像高は149.6cm。頭上面を戴き、合掌する2本の腕と脇手（制作当初は40本か）を表わす一般的な形の千手観音菩薩像である。上半身には条帛と天衣を、下半身には裾と腰布を着ける。

木造で、当初は「割矧ぎ造り（一木造りの像を、制作途中で一度2つに割り離し、内割りを施した後、再度接合する技法）」の技法で制作されたとみられる。ただし、現在の頭部および体部のうち背面材、脇手などは江戸時代に補われたものであり、残存する制作当初部は、体部の前面材（三道下から膝下）のみである（図3）。この前面材についても、後世に広範囲にわたって表面の修理が行われたことが推測される。

制作年代は前面材の造形から判断するほかないが、裾の折り返しをV字型につくり、腰布が幅広く膝周辺までを覆う形式、肩幅が広く脚部にかけて細身となるプロポーションから平安時代後期～鎌倉時代初期（12世紀後半～13世紀前半）とみておきたい。



図3
〈その1像〉体部前面材



図4
〈その2像〉全身正面

〈その2像〉

像高は163.7cm。形状は概ね〈その1像〉と同様であるが、条帛の下に幅広の布がみえるほか、腰部前方に布の結び目が表される。

頭体幹部を一材で造り、背面を割矧ぐ。背面材および脇手などは〈その1像〉と同様、江戸時代に補われたものである。当初部である頭部および体部前面材には、広範囲にわたって後世の修理痕が認められる。（図4）

〈その1像〉に比べてなで肩で、下半身に重厚感がある姿である。裾が足の甲を覆い裾が台座に接地する点、腰布が丸みを帯びた舌状の形であらわされる点はプロポーションと合わせて〈その1像〉より古様であり、平安時代後期（11～12世紀）の作と考えられよう。

2、修理歴

先に述べたように現在の状態から、2軀の千手観音像は幾度も修理が重ねられてきたことが想像される。この度の調査において2軀の修理歴を考える上で非常に重要な文字資料が2件発見された。以下にその詳細を述べる。

① 江戸時代・寛延4年（1751）〈その2像〉納入木札墨書銘（図5）

【表】千手観音三體大澄大師之御作也内中尊像体當寺□□之節紛失貳体破損不／堪感歎再興焉也／于時寛延四辛未九月如意珠日瑞應山主禪活龍謹志

【裏】加州河北郡瑞應山傳燈護國禪寺西北隅安置於夕日寺村

この木札は〈その2像〉の体内より発見されたもので、一部鼠害された部分があるものの概ね判読可能な状態である。表面の記述によると、大澄（泰澄）大師の作である千手観音像3軀のうち、中尊1軀は紛失し、2軀は破損していたため再興した。寛延4年9月、瑞應山（伝燈寺のこと）の活龍の時であったという。裏面では、千手観音像を伝燈寺の西北の隅、夕日寺村に安置したことを伝える。

ここに登場する「瑞應山主禪活龍」は、伝燈寺第43世の活龍慧禪（宝暦8年〔1758〕没）のことである。伝燈寺は夕日寺町の東方に位置する古刹で、恭翁運良を開山とする法燈派の流れを汲む臨済宗寺院である。中世最盛期には多数の塔頭が所在した。千手観音像2軀の再興（修理）に伝燈寺の僧が関わっていたことは、18世紀中頃の夕日寺の運営体制や、夕日寺・伝燈寺周辺の寺院ネットワークを考えるうえで大変重要である。



【表】 【裏】
図5 〈その2像〉
納入木札

② 江戸時代・宝暦3年（1753）〈その1像〉台座内墨書銘（図6）

寶暦三年／酉正月吉祥日 加符今町／佛師住山／要元／右ノ右之尊像之御作共□□仕也

この墨書銘は、〈その1像〉の台座内部に記されたものである。〈その1像〉・〈その2像〉の台座および光背は作風より同時期の作と考えることができる。いずれも宝暦3年頃に仏師・住山要元が中心となって脇手と共に新造した可能性が考えられる。

以上2件の文字資料により、千手観音像2軀は、寛延4年（1751）頃から宝暦3年（1753）にかけて大規模な修理が実施されたことが判明した。先述の通り、千手観音像2軀の本体は、ある時期に頭部や背面材、脇手の新補など大幅な修理を受けているが、これらの処置も上記のタイミングで実施された可能性があるだろう。両像の修理歴については、上記の資料を踏まえて引き続き検討を進めたい。



図6 〈その1像〉台座内銘文

3、「千手観音三體」の謎

前項で紹介した、「① 〈その2像〉 納入木札」の内容でさらに注目すべきは、「千手観音三體」と記される点である。『三州奇談』（18世紀中頃成立）をはじめとした近世・近代の地誌・縁起類においては、夕日寺の千手観音像「2軀」の存在が語られてきた。木札の記述は、知られざるもう1軀の千手観音像の存在を示唆する点で重要である。木札の示す通り、失われた1軀が中尊であったならば、それは現在残る2軀よりもさらに大きい像だったのかもしれない。

かつての夕日寺には千手観音像が3軀存在したのか、それとも当初より2軀であったのか。これは夕日寺の性格を考える上で非常に重要な問題である。いずれにしても同時代に同規模もしくはそれ以上の千手観音像を複数軀安置する例は極めて稀であり、「千手観音菩薩」への並々ならぬ信仰がうかがえる。その造立意図を検討するのも今後の課題である。

2軀の千手観音像はご寄贈いただいた後、クリーニング・調査を経て、〈その2像〉のみ新収蔵品展「れきはくコレクション」（会期：令和8年7月25日～8月30日）で展示を行った。両像の状態は芳しくなく、永く保存するためには修理が必要である。次回の展示機会については未定であるが、今後の調査・修理の進展に伴い、新たな知見が得られた際には、その都度報告する予定である。

催し物 案内 Information

各種講座などの情報をお知らせします。
※各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします。

10月 休館日：なし

21日 (水) **いしかわ歴史講座 13:30～15:00** 聴講無料／申込不要
「縄文人の装い」
講師：野村 将之（当館学芸主任）

24日 (土) **れきはくゼミナール 13:30～15:00** 聴講無料／申込不要
「装いの文化をよみとく ― 真成寺奉納着物を中心に ―」
講師：大井 理恵（当館学芸課長）

11月 休館日：11/9(月)、11/10(火)

4日 (水) **いしかわ歴史講座 13:30～15:00** 聴講無料／申込不要
「邪馬台国時代の加賀・能登」
講師：三浦 俊明（当館資料課長）

18日 (水) **いしかわ歴史講座 13:30～15:00** 聴講無料／申込不要
「加賀・能登の中世武士たち」
講師：岡崎 道子（当館学芸主任）

21日 (土) **れきはくゼミナール 13:30～15:00** 聴講無料／申込不要
「石川からの満州農業移民 ― 特に民間移民計画を中心として ―」
講師：齋藤 仁志（当館学芸主任）

12月 休館日：12/28(月)～31(木)

2日 (水) **いしかわ歴史講座 13:30～15:00** 聴講無料／申込不要
「白山信仰の美術」
講師：中井 夏帆（当館学芸員）

12日 (土) **れきはくゼミナール 13:30～15:00** 聴講無料／申込不要
「下級実務役人からみる藩機構 ― 加賀藩執筆役の分析 ―」
講師：林 亮太（当館学芸主任）

16日 (水) **いしかわ歴史講座 13:30～15:00** 聴講無料／申込不要
「加賀藩預所と幕領 ― 能登・白山麓天領について ―」
講師：吉田 朋生（当館学芸主任）

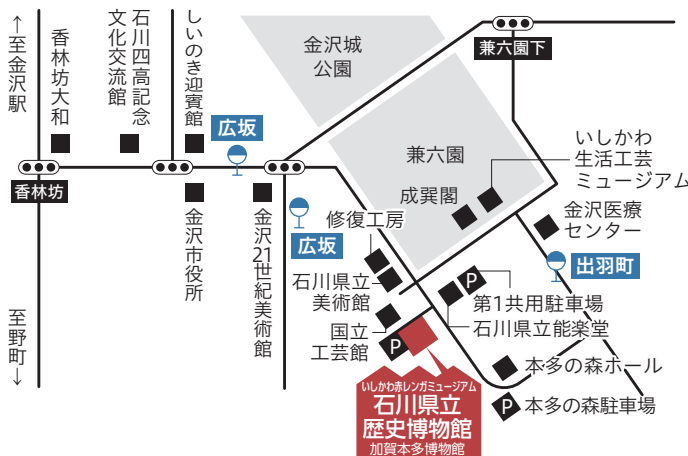
お知らせ

レトロ建築見学会 に参加しませんか？

金沢城や兼六園周辺には、明治・大正期に建てられた「レトロ建築」が多く残されています。
毎週土曜・日曜は地元ガイドが建物の外観や内部をご案内いたします。
詳細は公式サイトをご確認ください。



石川県観光
公式サイト



いしかわ赤レンガミュージアム

石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL: 076-262-3236 FAX: 076-262-1836
E-mail: rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
<https://ishikawa-rekihaku.jp/>



広告

頼れる人がいない！
人生後半はどうなる？

私たち一般社団法人 終活協議会が提供する心託したくサービスは、入院中の買物や通院への付き添い、安否の見守り、入院手続き、介護施設から葬儀・納骨・火葬のための公正証書作成といった必要な後の手続きまで、すべてを一つの窓口を通じて対応します。生計を維持し、頼りにして頂けます。

申込番号
2017

資料請求で
エンディングノート
無料プレゼント

資料請求は
お電話で(無料)
「資料送付を希望」と
お伝えください

050-1883-0482 受付時間(年中無休)
10:00～17:00

一般社団法人
終活協議会
想いこぼれしんぐグループ

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨2-11-4
第3高橋ビル11F

スマートフォンは
こちらから▼

※お客様の個人情報
は、サービスのご案内
内・資料送付にのみ
使用いたします。



サービス詳細・料金を
こちらの資料でご案内します



入会金:1万円(税込) / 身元保証・死後事務などの各種サービスは、入会金とは別料金となります。※月額・年会費無料 / 資産開示不要 / 代金のお支払い方法は銀行へのお振り込みとなります。お振り込み手数料はお客様の負担となります。お客様の氏名・住所などの個人情報、葬社サービスののご案内・資料のご送付以外には使用いたしません。